

I 挨拶

- 1 豊島区長挨拶
 - 2 文化庁長官挨拶
 - 3 全体統括挨拶
 - 4 豊島区議会議長挨拶
-



「としま新時代」の幕開け

豊島区は2019年、西安市、仁川広域市との東アジア文化都市事業を、多くの区民や関係者の皆様とともにオールとしまで展開してまいりました。お力添えいただいた全ての皆様に心から御礼申し上げます。

本事業を通じて、文化の交流は国家間の様々な軋轢を超えて人と人との絆を紡いでくれることを、多くの方々と共有できたと確信しております。これからも西安市、仁川広域市との交流の絆をさらに強くしながら、次の世代に引き継いでまいります。

「東アジア文化都市2019豊島」では「舞台芸術」「マンガ・アニメ」そして「祭事・芸能」を中心にオールとしまでの参加によって様々な文化プログラムを展開いたしました。特に世界共通の文化である「マンガ・アニメ」を有意義にアピールできたことは大きな自信につながっております。11月に開催した「池袋アニメタウンフェスティバル」では「マンガ・アニメの聖地」としての池袋、豊島区の魅力を国内外に向けて大きく発信することができました。

いま豊島区は、東アジア文化都市の開催記念事業として、Hareza 池袋をはじめ、池袋西口公園の野外劇場、真っ赤な電気バスなど、23のまちづくり記念事業が進行しています。区民の皆様とともに一体となって取り組んだこの事業によって、豊島区は「国際文化都市」へと舵を切りました。

文化によって東京で一番、勢いのあるまち、元気のあるまち、注目されるまちとして、「としま新時代」につながる扉が未来へ向けて開かれています。

世界中から人を惹きつける国際アート・カルチャー都市の実現に向け皆様とともに歩んでまいりましょう。

東アジア文化都市2019豊島実行委員会 委員長
豊島区長

高野之夫



「国際アート・カルチャー都市」豊島区への期待

「東アジア文化都市2019豊島」事業が、大きな成功を収め終了しました。豊島区をはじめ、多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

東アジア文化都市は2014年から開始され、日中韓それぞれの都市が互いの持つ豊かな文化芸術を発信し、交流することで、3か国の友好協力関係の深化に寄与する事業です。また、選定された都市が、その文化的特徴を活かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、まちを発展させることも目的としています。

豊島区は、1年を通して多くの文化芸術イベントを展開しましたが、特に、西安市、仁川広域市から芸能団を招いた舞台公演では、多くの区民の方に東アジア文化の共通性や多様性を再発見してもらう機会となりました。また、本公演は、新しい文化の拠点である「Hareza 池袋」にて行われ、会場周辺では、「池袋アニメタウンフェスティバル」と称して、中国・韓国の方のみならず、まちを訪れた多くの人々にマンガやアニメを中心とした豊島区の魅力を大いに発信しました。

そして、豊島区は今までにない新しい東アジア文化都市を魅せてくれました。豊島区は「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指していますが、この1年を通して、まさに東アジア文化都市を契機とした文化によるまちづくりが行われました。

「東アジア文化都市2019豊島」は終了しましたが、国際文化都市豊島区は決して終わりません。2020年には文化の祭典でもある東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も開催されます。2020年、そしてその先に向けても国際アート・カルチャー都市、豊島区の発展を楽しみにしています。

3都市間の交流により芽生えた新たな出会いと友情が、ますますの交流の発展につながり、今後の東アジア文化都市にも引き継がれ、花開くことを祈念いたします。

文化庁長官

宮田亮平



豊島は未来へと羽ばたく

「東アジア文化都市2019 豊島」は大きな盛り上がりの中に幕を閉じましたが、豊島区はなおも進化を続けています。当初掲げた7つの目標はどれもが様々な形で達成されてきましたが、ここでは大きく3つの点に触れたいと思います。

第一は、東アジア文化都市事業の趣旨・目的である国際文化交流についてです。それぞれの都市で開かれた式典や様々なイベントを通じて、子どもたちを含む市民レベルの交流が進みました。9月には豊島区から総勢151人の民間視察交流団が仁川広域市、西安市を訪問しました。両市から熱烈な歓迎を受け、参加者は民間の文化交流が平和と友好の礎となることを強く実感しました。

第二は、「豊島の文化」の大きな進化です。豊島区は地域ごとに特徴があり、従来から様々な伝統的なお祭りや行事が盛んですし、演劇祭や音楽祭、数々のフェスティバルも毎年開かれています。これらの多様な活動がこの一年を通じて重層的に結びつき、大きなエネルギーとなって豊島という都市の文化を生成発展させて来ました。区民の皆さんもそのダイナミズムを目の当たりにして、大きな喜びと誇りとを覚えたことと思います。中でも子どもたちを対象とした参加型のプログラムは、文化を通じて次の世代を育てるさを作っていく試みの一環でしたが、日中韓3か国語の歌詞を持つ「わたしは未来」を歌った子どもたちは、豊島がアジアに、そして世界に連なっていることを深く感じたことでしょう。

そして第三は、2019年が〈国際アート・カルチャー都市としま〉の大いなる第一歩となったことです。Hareza 池袋、池袋西口公園野外劇場が完成し、公園や広場も次々と整備され、IKEBUSも走り始めました。これら文化都市の基盤となる施設とこの1年間の貴重な経験を活かし、力を合わせて平和で豊かな明日の豊島、そして未来のアジア、世界を作って行きましょう。それこそが東アジア文化都市2019を成し遂げた豊島の使命に他なりません。

東アジア文化都市2019豊島実行委員会 全体総括



吉岡 知哉

国際アート・カルチャー都市豊島へ

2019年、1年間にわたる「東アジア文化都市2019豊島」が閉幕しました。

本事業をともに盛り上げていただいた豊島区民の皆様、中国・西安市、韓国・仁川広域市の皆様をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

2月のオープニングを皮切りに、「マンガ・アニメ」、「舞台芸術」、「祭事・芸能」を中心に豊島区が誇る様々な文化交流事業に取り組んでまいりました。特に区民が中心となり実現した151人の西安市、仁川広域市への視察交流派遣は、これまでに例のない最先端のモデルとなったと確信しています。

2019年は豊島区が持つすべての力を集結し、安全・安心な都市空間の中で、誰もが自分らしく暮らしながら多様な文化を共有し合い、世界中の人々を魅了する賑わい溢れる「国際アート・カルチャー都市」の実現に大きく前進しました。

豊島区は、池袋を中心として街がダイナミックに変革しています。豊島区議会といたしましても、引き続き区と連携しながら、まちの魅力発信のために全力を尽くしてまいります。

豊島区議会 議長

磯 一 昭





© Hajime KATO



はらはら、どきどき、
文化がいっぱい。

